Annual Report 2008

特定非営利活動法人　アイセック・ジャパン

会員団体　アイセック関西学院大学委員会

平成20年度　年次活動報告書

AIESEC

The international platform for young people to discover and develop their potential

Contents

3・・・アイセック団体概要
5・・・委員会理事挨拶
6・・・平成20年度委員長挨拶
7・・・平成21年度委員長挨拶
8・・・平成20年度活動実績報告
9・・・海外研修生受入事業局活動報告
10・・・局長挨拶
11・・・インターンシップ受入実例紹介
Krystian Botko（ポーランド）
13・・・海外研修生送出事業局活動報告
14・・・局長挨拶
15・・・インターンシップ送出実例紹介①
岸本大輔（フィリピン）
17・・・インターンシップ送出実例紹介②
山本吏紗（カメルーン）
19・・・平成20年度　決算報告
21・・・企画報告「Stakeholders Party 2008」
23・・・平成20年度賛助企業一覧
24・・・KGLC Photo Album 2008
26・・・アイセック関西学院大学委員会団体概要

Peace and Fulfillment of Humankind's Potential.

AIESECとは

アイセックは、海外インターンシップ(研修)を軸とした国際的な挑戦の機会を通じて次代の国際社会を担う学生が自らの可能性を発見し、発展させる国際学生NPOです。設立以来、学生に海外インターンシップ交換事業の運営及び参加の機会を提供することを通じて、社会的課題を解決に導く人材や次世代の国際社会を牽引する人材の輩出を目指しています。現在では世界中で年間3500人以上の学生がアイセックの海外インターンシップを活用しています。さらに、国内外で350の会議を運営し、5000人以上のメンバーに組織を運営して自らリーダーシップを発揮する場を与えています。

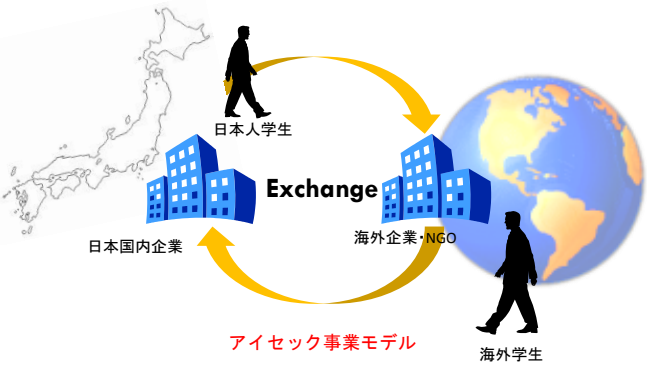
海外インターンシップ生交換事業

アイセックは1948年の設立以来、一貫して 海外インターンシップ事業を行い「インターンシップ」と「国際理解」の経験を通じ、国際社会を舞台に活躍しえる若者を育成しております。現在では年間5000人程度の学生を交換し、継続的に次代のリーダーを輩出し続けています。

AIESECの歴史

世界にまだ第2次世界大戦の傷跡が残る1948年、西欧7カ国の経済及び商学を学ぶ学生たちが、西欧社会の復興と平和の再建を目指して若者たちが手を結ぶことを呼びかけ組織されたのがAIESECの始まりです。2008年、AIESECは設立60周年を迎えました。

1948 60 2008



アイセック事業モデル

団体理念

What is AIESEC

AIESEC is a global, non-political, independent, not-for-profit organization run by students and recent graduates of institutions of higher education. Its members are interested in world issues, leadership and management. AIESEC does not discriminate on the basis of race, color, gender, sexual orientation, creed, religion, national, ethnic or social origin.

アイセックは、その活躍の場を国際社会とし、いかなる政治思想からも自由で、独立した非営利組織であり、大学生を中心とする若者によって運営されている。我々は、国際問題・リーダーシップ・マネジメントに興味を持つ学生によって組織されており、人種や肌の色・性別・性的嗜好・信条・宗教・国・民族や社会的地位などから差別することはない。

What we envision

Peace and Fulfillment of Humankind's Potential.

平和で人々の可能性が最大限発揮される社会の実現。

Our Impact

Our international platform enables young people to discover and develop their potential to provide leadership for a positive impact on society.

我々の持つ国際的なプラットフォームによって、若者は、社会にポジティブな影響を与える為のリーダーシップを発揮する可能性を拓いていく。

The Way we do it

AIESEC provides its members with an integrated development experience comprised of leadership opportunities, international internships and participation in a global learning environment.

アイセックは、そのメンバーに対して、リーダーシップ経験・海外インターンシップ・国際的な学びの環境を通して統合された成長機会を提供していく。

Value

1. *Activating Leadership*
2. *Demonstrating Integrity*
3. *Striving for Excellence*
4. *Living Diversity*
5. *Acting Sustainably*
6. *Enjoying Participation*

1. 常に主体性を発揮することで、新たな道を切り拓いていきます。
2. 自身の行動によって生じる全ての責任を、最後まで果たします。
3. 「現状不満足」を是とし、常に比類なき価値の創造を志向します。
4. 寛容な心で差異を認め合い、そこから新たな価値を見出します。
5. 次代へ繋ぐことを忘れず、持続的な価値を発信し続けます。
6. 情熱を持ち果敢に挑戦することを以って、至上の喜びとします。

AIESEC International

ドイツ
ベルギー
イギリス
ノルウェー
デンマーク
ハンガリー
ルーマニア
ロシア
ウクライナ
ラトビア
ユーゴスラビア
クロアチア
トルコ
フランス
オランダ
ポルトガル
スウェーデン
ポーランド

チェコ
アイルランド
カザフスタン
アルメニア
リトアニア
スロベニア
ボスニアヘルツェゴビナ
マルタ
イタリア
スペイン
フィンランド
スイス
オーストリア
スロバキア
アイスランド
ベラルーシ
エストニア
ブルガリア
マケドニア
ギリシア

ガーナ
セネガル
エジプト
ナイジェリア
ボツワナ
ウガンダ
ケニア
モザンビーク
タンザニア
カメルーン
チュニジア
リベリア
南アフリカ共和国
トーゴ
コートジボアール
ジンバブエ
モロッコ

日本
香港（地域）
タイ
インドネシア
スリランカ
バングラデシュ
韓国
台湾（地域）
マレーシア
オーストラリア
インド
中国
フィリピン
シンガポール
ニュージーランド
パキスタン
アラブ首長国連邦
アフガニスタン

カナダ
アルゼンチン
コロンビア
エクアドル
パナマ
ウルグアイ
アメリカ合衆国
ブラジル
コスタリカ
グアテマラ
ペルー
ベネズエラ
メキシコ
チリ
ドミニカ共和国
エルサルバドル
プエルトリコ
ボリビア

世界100カ国以上
日本では24大学委員会のネットワーク

AIESEC Japan

東日本地区
北海道委員会
東京大学委員会
慶應義塾大学委員会
慶應湘南藤沢委員会
青山学院大学委員会
中央大学委員会
仙台委員会
一橋大学委員会
早稲田大学委員会
上智大学委員会
立教大学委員会
明治大学委員会
筑波大学委員会

中部地区
名古屋大学委員会
名古屋市立大学委員会
南山大学委員会

西日本地区
滋賀大学委員会
京都大学委員会
同志社大学委員会
大阪大学委員会
大阪市立大学委員会
関西学院大学委員会
神戸大学委員会
広島委員会

AIESEC
The international platform for young people to discover and develop their potential

委員会理事挨拶

アイセックOBとして理事に就任したのは5年前。アイセック関西学院大学委員会（以下、KGアイセックと略記）が新たな発展を迎える契機は、今年2月14日に訪れました。関西アワードの海外研修送出し部門で、KGアイセックから2名が候補に選出され、現委員長が国内アワードの出場権を得ました。トップが個人能力を発揮し、組織全体を適切に管理できると、後輩もその姿を見て立派に育ちます。
KGアイセックは2011年に創設40周年を迎え、その記念行事に向け、元LCPの大向氏が中心となり、OB・OGと現役生との交流機会が設けられ、一体感が形成されています。
トップの個の力に、OB・OG-現役生間の結束力が加われば、外国人研修生の国内受入れや海外研修への送出しに効力を発揮できます。まさに発展の理想型が見えつつあります。
アイセックの主活動は、関学大のスクールモットー ”Mastery for Service” の具現化に他ならず、OB兼理事としてSRB面接官を務め、お役に立てれば幸いです。
最後に、平素からアイセックの活動に御理解の上、御協力を賜っている会社の経営者や研修担当者や関係部署の方々、関係諸機関の代表者の方々に心より厚く御礼申し上げます。

関西学院大学
商学部教授
藤沢　武史

2008年のリーマンショックによって外需産業の元気がなくなり、新型インフルエンザの影響により、内需産業の元気がなくなっています。学生の就職活動についても、例年よりも厳しい状況になっています。在学中に就職活動を行って、企業に就職を決めるというパターンが、少しづつですが、変わっていくかもしれません。5月25日の日経新聞において、Shukatsu It's me プロジェクトの紹介がされていました。
http://www.shukatsu-itsme.jp/index.html
AIESECのメンバーの顔を思い起こすと、東京大学に勤務していたときに、研究室に来ていたインドのムンバイのAIESECの代表をされていたAbhishek氏のことを思い出します。彼に英語の論文の修正をお願いしていたのですが、そのアイデアをインドに戻って、会社として開花させhttp://www.editage.com 彼のバイタリティには、いつものことながら感動を覚えます。インドで大学を卒業しても、十分な就職先がないのであれば、自分達でつくってしまう行動力は、ぜひ日本のAIESECのメンバーも見習ってほしいと思います。チーム力を持った個性が伸びてくる時代になったのかもしれません。今後のAIESECのメンバーの活動に期待しています。

関西学院大学
総合政策学部准教授
松村　寛一郎

平成20年度　委員長挨拶

平素よりアイセック関西学院大学委員会に多大なるご支援、
ご協力頂きまして誠にありがとうございます。

「海外インターンシップ事業に注力し、成果を収めた年」
2008年度の当委員会の活動を上記のように総括致します。

主幹事業である海外インターンシップ事業の運営に注力し、
過去数年停滞していた成果を打開し受け入れ・送り出し合わせて
15件の成果を残すことができました。
以上のような結果を出す為に2008年度の委員会として以下の取り組みに注力致しました。

メンバーが活動しやすい環境を整備し、全員の資源を一点に集中する。近年弊委員会を構成する会員数も拡大し、組織としてより成長する段階に迫ってきました。そこで、メンバーがより集中して活動できる環境として6・7名からなるチーム制を導入し、各々のチームで海外インターンシップ事業の成果拡大を目指してきました。

過去数年は10件にも満たない件数も15件を超えて今後も拡大し続ける事と確信しております。ただ単に数字上の拡大を目指しているのではなく、海外インターンシップ事業というものを通じて全く異なる価値観をもった社会人や学生の方をつなぎとめるだけの責任やリーダーシップを発揮してこそ自分自身の価値観も磨かれていくものだと考えております。

至らぬ点も多々あるとは存じますが、今後とも当委員会へのご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

平成20年度委員長
関西学院大学　法学部

三鳥貴若

平成21年度　委員長挨拶

平素より当委員会の活動にご理解と多大なるご支援、
ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

委員会存続の危機を乗り越え、その立て直しを図ったこの数年間。そこから更なる発展への道のりを描こうと、昨年度は研修事業を行う基盤を拡大させ、成果へと繋げた年となりました。その年を引継ぎ、今年度はさらに「進化」する年でありたいと考えております。

ただがむしゃらに1件の研修を生み出すことだけでなく、1人1人が将来の自分を見つめ、世界の状況を見つめ、今の自分と向き合って、自分の夢へのキャリアパスを描きながら活動することにまっすぐ向かっていけるような組織へ。「夢の実現手段としてのアイセック」をコンセプトに、アイセック関西学院大学委員会をより盛り立てていければと思っております。

学生団体は長くとも4年で全てのメンバーが入れ替わり、理想や想い、活動自体をも引き継いでいくことが難しいと言われます。アイセックもその例外ではなく、1年で組織のトップが替わり、継続的に活動を発展させていくことはなかなか困難です。ですが、毎年変わらざるを得ない組織だからこそ、単年度で「変える」ことも出来る組織だとも思っています。先人方の理想や想い、アイセックへの愛を胸に留めながら、その「進化のための変化」をメンバー1人1人が自ら主体的に生み出していく、そしてその「変化」を支えられるだけの支援活動を行える経営陣の体制を確立させることを目標に、この1年間、精進して参りたいと思います。

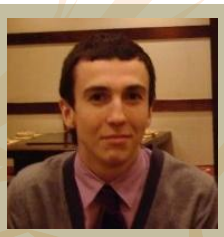
至らぬ点も多々あるとは存じますが、今後とも弊委員会へのご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

平成21年度委員長
関西学院大学　総合政策学部

坂野 晶

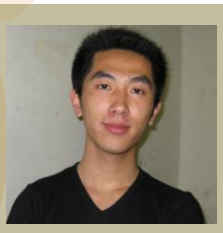
平成20年度　活動実績報告

海外研修生受入事業：3件



Krystian Botko

出身国：ポーランド
インターン先：商船港運株式会社
インターン期間：2009年1月～2009年3月
インターン内容：
従業員の英語コミュニケーション力アップ
港湾運送の一連の動きを学ぶ
社の改善ポイントをまとめる



洪 浩（Hong Hao）

出身国：中国
インターン先：株式会社出版文化社
インターン期間：2008年5月～2009年3月
インターン内容：
インターン先HPを中国語に翻訳
社史作成システムの中国語化

Paul Bryson

出身国：オーストラリア
インターン先：株式会社出版文化社
インターン期間：2008年5月～2009年3月
インターン内容：
海外ビジネス書の要約、企画出版
和書の英訳

海外研修生送出し事業：12件

＊記載内容＊
研修生指名
学部/回生
①インターン期間　②インターン先　③インターン内容

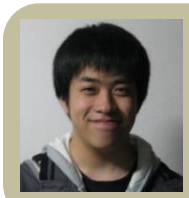
岸本大輔
関西学院大学
総合政策学部2年
①2008年8月～2008年9月
②フィリピン　Bukid Foundation
③貧困コミュニティで異文化交流

才戸康司
関西学院大学
総合政策学部2年
①2009年2月～2009年3月
②フィリピン IPHC Philippines
③児童への日本文化紹介等の
教育活動

梶谷夏海
大阪大学
外国語学部3年
①2009年3月～2009年12月
②インド　AccessAbility
③ 障害のある人の就職支援

吉田麻人
関西学院大学
総合政策学部2年
①2008年～2008年10月
②フィリピン IPHC Philippines
③First Aid、日本文化の紹介

杖村恵子
関西学院大学
総合政策学部2年
①2009年2月～2009年3月
②インドネシア　Greeners
③環境改善の解決策発見のための
地域の環境調査やインタビュー



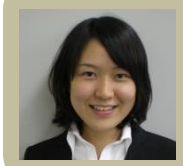
和野純一
大阪市立大学
経済学部4年
①2008年11月～2009年1月
②ルーマニア　Colegiul Spiru Haret
③現地高校での異文化企画の
運営と実施

千島拓也
関西学院大学
総合政策学部2年
①2008年～2008年10月
②フィリピン COM
③ストリートチルドレンへの
教育活動、企画・運営

横内佑和
関西学院大学
総合政策学部1年
①2009年2月～2009年3月
②フィリピン
GawadKalingaFoundation
③貧困問題へのアプローチ
コミュニティーでの子供達への教育

中山真衣
大阪市立大学
文学部4年
①2009年3月～2009年10月
②インド Subhanu Consulting
③社員に対して日本語をおしえる
マーケティング、翻訳

喜多春菜
関西学院大学
社会学部3年
①2008年9月～2008年10月
②フィリピン　Eagle Foundation
③子供に対する環境教育
環境問題のリサーチ



山本更紗
関西学院大学
総合政策学部1 年
①2009年2月～2009年4月
②カメルーン
Reach Out "the ASK Program "
③ HIV/AIDS問題へのアプローチ、
HIV/AIDSと闘う人のための施設の
建設に携わる

岩本俊介
関西学院大学
法学部4年
①2009年3月～2009年6月
②ハンガリー　Immigration office
③ハンガリーの
移民に対する支援活動

－In Coming eXchange－

海外研修生受入事業局
活動報告

『外部協働／価値発信』

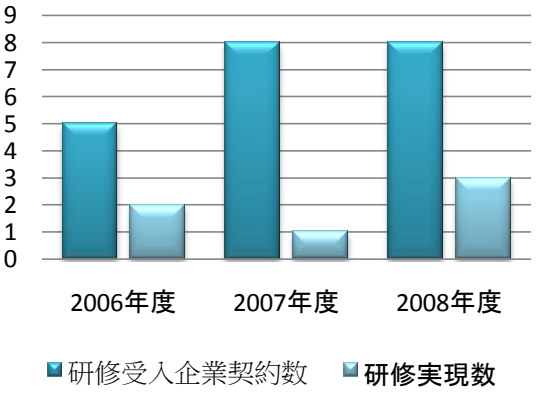
年間で3件の研修実現、8件の契約（うち新規6件）を獲得。

局長挨拶

Connection Communication Collaboration!!

金澤一生
平成20年度海外研修生受入事業局　局長
関西学院大学　商学部3年

研修実現数と研修受入企業契約数の年次推移



今年度の受け入れ局では、『Connection Communication Collaboration!!』をスローガンとし、数的目標としては年間8件の研修実現と8件の契約獲得を目標に総勢20名弱のメンバーとともに活動してきて参りました。これらの目標は、AIESEC KG、受け入れ企業様、そして研修生を「つなげる」こと、そしてその「つながり」から生まれる大きな力を糧に、共に成長にしていきたいという趣旨でたてられています。しかし、企業様のご協力なしでは成り立たない受け入れ局の活動において、リーマンブラザーズ倒産に端を発する世界的な大不況の影響は大きく、研修実現数・契約数ともに目標よりも伸び悩んでしまう結果となりました。その苦しい状況の中でもチーム一丸となって研修運営に注力し、年間で3件の研修実現、8件の契約（うち新規6件）を獲得するに至りました。今年度の研修実現数の内訳は、株式会社出版文化社様でのPaul Bryson（オーストラリア）・洪浩（中国）、商船港運株式会社様でのKrystian Botko（ポーランド）の計3件です。目標達成に及ばなかったのは非常に悔しく残念でもありますが、例年より多くの研修を実現でき、確実に成長できたものと認識しております。今年度も多くの素晴らしい受け入れ企業様に恵まれたということに、深く感謝しております。

どの受け入れ企業様も研修生の事を彼らの立場に立って考えて下さり、彼らの成長のための機会をたくさん設けて下さいました。その結果、研修生はみな当初の目的を達成し、大きな成長をして研修を終えることが出来たと確信しております。また、今年度の受け入れ局の活動において特筆すべき点として、研修生とKGメンバー、そして企業様の距離が非常に近く、良きパートナーとして1年間活動できたことにあると思います。まず、研修生とメンバーが信頼関係を築くことができ、仲間としてお互い刺激しあい、学びあうことで大きな成長ができたと実感しております。そして、企業様をはじめとするStakeholderの皆様と協働することで、新たな学びの場を多く創出することができました。例えば、清水電設工業株式会社様ご協力のもと、他企業様2名を交えて「IT」に関してのセミナーを開催させていただき、「IT」という我々学生にとって非常に重要な視点を学ぶ機会になりましたし、商船港運株式会社様とは社員様とKGメンバーが合宿形式で研修生の研修報告会を実施するなど、全く新しい取り組みも実施することができました。これらの機会というのは、学生だけでは学ぶことの出来ない視点や知識を獲得することができ、非常に有意義であったと感じています。

昨今の厳しい社会情勢はまだ復調の兆しが見えておりませんが、常に前向きにメンバー一同力を合わせてこの難局を乗り越えたいと思っておりますので、これからもご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

Krystian Botko

出身国：ポーランド
インターン先：商船港運株式会社
インターン期間：2009年1月～2009年3月
インターン内容：　従業員の英語コミュニケーション力アップ
港湾運送の一連の動きを学ぶ

研修実例紹介

Poland

大切なものを実感できるインターン。

＞How was your internship at Shosen Koun?

To start with, I must admit it has been an unforgettable experience and challenging adventure for me to spend the three months in Japan and for these I am extremely grateful. I have been allowed to participate in authentic business meetings, which gave me a chance to observe the behavior of Japanese businessmen in formal situations. What's more, in most of the cases, I was provided with an interpreter to enable me to understand what the matter of the meetings was. I also was introduced to serious managers from a range of Shosen Koun Divisions and its partner companies, which provided me with an opportunity to learn a lot about the business through both formal discussions and informal chats over lunches or dinners. In terms of the quality of trainings obtained, I am generally satisfied. Most of the trainers were prepared well and devoted sufficient amount of time for the workshops.

Considering, the significant obstacle of English language based trainings, it must have been a great effort for them, for which I am also thankful. Nevertheless, It must be admitted that in some cases, the trainings were slightly neglected, probably due to the trainers' amount of workload. In few situations, the language barrier hindered the communication to an extent, which made it impossible to understand the contents. However, for most of these rare cases an interpreter was provided.

In terms of non-business related experience of the internship, I must acknowledge I have been treated sound. I was invited to several lunches, dinners and parties by at each department I had pleasure to work for.

I am generally happy with my overall performance in Japan. Thanks for having me there again. It has been a wonderful experience.

Krystian Botko

＞研修生担当者として、今回のインターンの感想

「決して画期的だったり偉大な何かを残せたわけではない、けれど小さくともすごく大切なものを実感できる研修」をつくることができたと思っています。特に印象的だったのは、マッチング（研修生探し）の作業において通常約2ヶ月かかるところを1ヶ月で仕上げることができたことです。数十人の研修候補生と毎日メールや電話でやりとりするという手間のかかる作業をフルスピードでやり通すことができたのは、自分の行いが受け入れ企業様や日本で働くことを希望している研修生の人生に大きな影響を与える、それだけ重いことを担っているという責任感や他者とのつながりを実感することができたからだと思います。そしてクリスチャンが来日し、緊張や興奮もさながら、出会ってすぐに「この機会をつくってくれてありがとう」を言われた時の感動は何にも代え難いものでした。ここにたどり着くまでにおよそ半年の期間を要し、無事クリスチャンが来日したことで一安心と言いたいところですが、私は個人的に研修生が来日してからが担当者としての本当のスタートだと思っています。研修生が日本にいる時間、つまり研修生と受け入れ企業様とアイセックのメンバーが一同に集う時間が良いものであってはじめてこの研修の意味があると思うからです。実際に、クリスチャンが来日してからは日常のサポートや休日の観光、コミュニケーションはもちろん商船港運の方々との協働の場として目標設定会なども実施することができました。中でも、クリスチャンの研修最終報告会を兼ねた1泊2日の懇親会は研修生、受け入れ企業様、アイセックメンバーの3者全員の笑顔が飛び交うもので、私にとってこの研修づくりの中で最も印象に残っているベストな時間となりました。

AIESEC
The international platform for young people to discover and develop their potential

企業、研修生、アイセック。

以上のような流れでクリスチャンが帰国する2009年3月23日は一瞬のうちにやってきたような気がします。振り返ってみるとクリスチャンとは実際にはたった2ヶ月顔を合わせていただけなのですが、その何倍ものつながりを築きあげることができたと思っています。商船港運の方々にも単純な受け入れ企業としての対応だけでなく、社会人の先輩として指導していただき楽しい時間を過ごすことができました。今でもクリスチャンとは連絡を取っており、商船港運様もさらなる研修生受け入れを検討してくださっています。

私の不徹底からクリスチャンや商船港運の方々に無理を強いてしまうことも多々ありましたが、最終的に良い形で無事この研修をつくることができたのはこの研修に関わる多くの人の力があってのものだとあらためて思います。私はこの「つながり」を今回の経験を通して感じることができました。たった2ヶ月の研修、それによって何か大きな利益を残せたかというとそうではありません。ただ、色んな人の支えのもとで何かをやり通すことで「つながり（自分の行いが周囲に与える影響）、ゆえにどんな時でも誠実に全力で取り組まなければならない」ということを身につける研修づくりができたと思います。

VOICE

研修生担当者
石井　恵士
関西学院大学法学部3年
㈱商船港運　研修担当

VOICE

長谷川　隆様
商船港運株式会社
神戸コンテナターミナル部

弊社従業員はコンテナや輸出入貨物を通じて、書類中の英語に常日頃より触れているが、それは定型文のみの英語であり、文章を読むことや英会話をする機会は仕事上ほとんど無い。そのような中、従業員が少しでも生きた英語に触れる場として、又英語に興味を持ってもらおうという目的で研修生を受け入れることとした。初めて研修生を受け入れるということで、研修プログラムの策定など全くの試行錯誤状態であり、研修生着任前は期待より不安の占めるウェートのほうがかなり大きかったと記憶している。
しかしながら、クリスチャンが来日し弊社に着任すると不安はかなり和らいだ。なぜなら彼が積極的にコミュニケーションを取ってくれ、我々の拙い英語を懸命に理解してくれようとしたからである。また、業務に対する取り組みも真摯な態度であり各部署においての研修でも高評価であった。2ヶ月間という期間でクリスチャンは弊社のほとんど部署で研修を受け、日本の貿易・物流業務を実践で学ぶことができた。

そのことも大きな研修の成果であったとは思うが、彼の最大の研修成果は会議への参加や、アフター5の付き合いなどの日本の会社文化を経験し肌で感じることができた点だと思う。実際クリスチャンはアフター5のイベントの多さに驚き、疲れていたようだった。研修の中で弊社従業員にアンケートをとり、研修に対する率直な意見を述べてもらい、今後このような研修を存続すべきかを確認した。大半は研修に賛成で英語力を養う良い機会となった、今後も続けてほしいという前向きな意見もあった一方で、趣旨がはっきりしない、繁忙期には研修の相手ができないなどの意見も散見された。
今後の課題としては、今回は勝手がわからず緻密に各部署を割り当てて研修を受けてもらったが、短いスパンで担当者、研修場所が変わったため、クリスチャンも戸惑ったようだった。研修生がストレスを感じないよう余裕を持った研修日程を作成していきたい。

全体的には今回弊社がクリスチャンの研修を受け入れたことは総じて良かったのではなかったかと思っている。従業員が生きた英語に触れる機会を得たこと、自身の英語力を磨こうと勉強を始めるきっかけとなった従業員がいたことなど、関わった人数と掛かった経費とで考えると費用対効果は賄うことができたのではないかと考えている。
アイセックメンバーには研修中良くサポートしていただいた。クリスチャンの来日前より口を酸っぱくして要請していたのが、社内では言葉がなかなか通じずストレスがたまるだろうからフォローをしっかりしていただきたいということだった。事あるごとに連絡をとっていただいていたようで、クリスチャンも体調を大きく崩すことなく研修を終えることができた。

最後に弊社を担当していただいた、石井君、谷頭君にはこの場を借りてお礼申し上げます。
お世話になりました。今後も宜しくお願いいたします。

－Out Going eXchange－

海外研修生送出事業局
活動報告

Be ambitious, Go ahead→

年間で12件の研修運営を実現。

局長挨拶

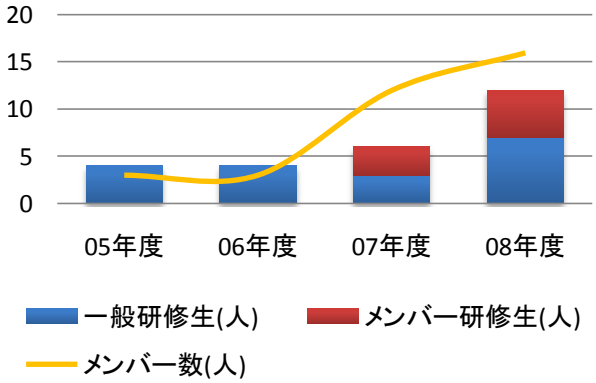
事業拡大への“思い”が芽生えを迎えた年

杉浦　望

平成20年度海外研修生送出事業局　局長

関西学院大学　総合政策学部3年

図1 数的成果、およびメンバー数推移



平成20年度の送り出し事業局の活動を振り返りますと、【数的成果の拡大】と【テーマに基づいたメッセージ性の強い研修作り】の2つの特色が挙げられます。まず【数的成果の拡大】です、08年度は近年において初めて2ケタ代の研修数である12件を実現[左図]、加えて研修先国はフィリピン6件、インド2件、インドネシア・カメルーン・ハンガリー・ルーマニアがそれぞれ1件と多彩な国での研修も同時に達成することが出来ました。また、特筆すべき事項といたしまして“メンバー自身が研修参加する文化の起こり”があります。07年度は6件中3人のメンバーが、08年度は12件中5人のメンバーが研修に参加しました。この文化の起こりは送り出し事業局の発展に寄与するものと自負しております。

そして【テーマに基づいたメッセージ性の強い研修作り】です、08年度では社会のニーズを基にテーマを設けチーム毎の活動を実施いたしました。チームは全部で4つ、それぞれが“人権”“貧困”“社会起業家”“教育”のテーマに基づき活動して参りました。この活動の意義は、メンバーの持つ社会へのメッセージを発信することで、社会はどんな反応をするのか？を知ることだと私は考えています。“自信を持って行ったことが失敗した”、“不安を持って行ったことが成功した”。これらは社会にアプローチするための機微でありました。そんな機会に溢れる活動があったというのも08年度の特徴の一つであります。

06年度、07年度、08年度とメンバーは違えども「もっと、多くの人に研修の機会を提供したい」「もっと、多くのメンバーと活動したい」という共通の“思い”があり、様々な施策を実行して参りました。先人の方々と私たちの“思い”が【数的成果の拡大】の形として芽生えを迎えた、それが2008年度関西学院大学委員会送り出し事業局であったと感じております。

未だ社会の中には、多くの問題や課題があり、それらを解決し続けなければいけません。そのために私ども送り出し事業局は“社会の荒波を越え新たな波を作り出す人材の育成と輩出”を目指し活動し続けなければなりません。そしてそのための“数的な基盤”が08年度で芽生えを迎えました。これからも多くの芽生えを迎え続ける送り出し事業局であるために、私どもは一所懸命の努力を重ねていく所存でございますので、ステークホルダーの皆様にはこれからも温かい支援のほどよろしくお願いいたします。

岸本 大輔

関西学院大学 総合政策学部2年
インターン期間：2008年8月～2008年9月
インターン先：フィリピン Bukid Foundation
インターン内容：貧困コミュニティで異文化交流

研修実例紹介

Philippines

＞インターンシップに参加した動機を教えてください。

私が、研修参加を決意した動機は2つある。1つは、ある研修生担当者として、1人の学生の「人生の転機」に携わらせていただいたことである。私はこの研修運営を通じて、アイセックの海外インターンシップに「若者の隠された可能性を引き出す何か」があると感じ、「研修参加」が自身の人生を充実させる為の魅力的な道であると確信することができた。研修生が帰国してすぐ、研修経験を報告する機会を設け、そこで目を輝かせて研修中の出来事、困難、成果をプレゼンする研修生の姿に感動し、私もアイセックの海外インターンへ参加にして、自身の人生を変えたいと思うようになった。

2つ目は、私の興味分野であった「貧困問題」に向き合い、自身がその問題に対して本気になれるのか、また何ができるかを試すためである。私は、高校生のときから貧困問題に対して関心を持っており、将来も貧困問題に取り組むことを夢としていた。そのため、本を読んだりニュースを見たりと自分なりに貧困を知ろうとはしたが、実際に自分がその場に行って何ができるかということ、本気で貧困に対して取り組みたいと考えているのかがわからなかった。そんな中である1冊の本を読み、「貧困問題」の現場に飛び込む必要性を感じることとなった。その本は「Room to Read」という途上国への教育支援を通して貧困解決を目指すNGOを立ち上げた方の書籍で、ネパールでの貧困コミュニティーでの出会いから感じたことが生涯貧困解決を取り組むにあたって大きな影響を与えたとの記述があった。私はこの書籍に感銘を受け、自身も「貧困」といわれる現場に飛び込み、自分が何を感じどんな行動をとることができるのかを挑戦したいと思うようになった。貧困問題への「興味」を「覚悟」へと変える挑戦として選んだのが、フィリピン・ミンドロ島での2ヶ月間の研修であった。

貧困問題への
「興味」を「覚悟」に変える挑戦。

＞インターンシップ中、困難だったこと

研修中感じた困難はただひとつ、「ミンドロ島にきた意義を見失ったこと」である。しっかりとした目的意識を持って望んだにも関わらず、研修での自身の不甲斐なさから、「何しにきたんやろう・・・」と悩むようになった。それは研修が始まって1ヶ月がたち、マンギャン族の子供たちの貧しい現状がだいたい理解できるようになった頃に感じ始めたことだった。勉強をしたくても学校に行くことができない、現金収入が少ないから食糧が手に入らない、貧しい現状に対する親のあきらめ、それらがサイクルとして循環している現状。そして背景に存在するフィリピンの経済システムと地理的問題、習慣。様々な問題が複雑に絡み合い、現象として起こる貧しさが子供たちを苦しめている。毎日毎日、勉強をしたいのに学校を休んで重たい農具をもって山を下る子供、勉強したいのに学校を休んで子供の世話をしなければならない子供。私よりも何倍も勉強に対する思いが強いのにそれができない現実。24時間を共に過ごし、僕を楽しませてくれる子供たちに自分が何もできないことがくやしく、「貧困を見ることができた。けど、それって自己満足じゃないか・・・。これでは日本に帰れない。」と苦悩する日々が続いた。「貧困を解決したい」そんな思いを抱きながらも日本で豊かに暮らしている自分が馬鹿らしく思えた。

僕が僕らしくあること。それが最も重要だった。

＞インターンシップを通して学んだこと。

その苦悩の末にたどり着いた答えが、「僕が僕らしくあることの大切さ」である。私は、子供たちのために大きなことをしようと思いすぎていた。だが、子供たちが求めていたのはそんなことではなく、1人の友達として同じ時間と感情を共有することだった。楽しいときは一緒に楽しみ、悲しいときは悲しいというように、岸本大輔という人間を素直に表現すれば子供たちはなついてくれた。思えば「素直さ」は私の長所として周りの方々から言われていたことである。もちろん子供たちの「貧困」を根本的に変えることはできたとはいわない。しかし、子供たちにとって限りなく近い存在になれたことはできたし、そのような成果を出せたことが私自身の可能性だと思う。
また、同時に「開発」を考えるにあたっての重要な視点を得ることができた。マイナスをゼロにするのではなく、プラスをさらなるプラスにする開発の形こそが私の理想だと考える。子供たちの貧しさに目を向けるのではなく、明るさや人懐っこさ、優しさといったよい部分に目を向けそれを活かす手法こそが真の開発だと考えるようになった。

＞インターンシップの経験を今後にどう活かしたいですか。

研修中にヒントを得た「開発」の形を追求するため、コミュニティー開発をテーマとしたゼミに所属し研究を続けている。このゼミには研修以外の道で開発を考える機会をもったメンバーが多く考え方や経験も違っているので、彼らと議論をしながら学びを深めていきたい。
また、「プラスをさらにプラスにする」という考え方をアイセック活動に積極的に活かしていく。私は2009年4月より研修生送り出し事業局の局長となり、学年をまたいだ複数のメンバーを率いる立場となった。様々な考え方をもったメンバーと共に成長していくためにも彼らのプラスの部分を信頼し、思い切って様々なことを任せていく。メンバーの成長こそが局長としての成功であることを忘れず1年を歩んでいこうと思う。もちろん対メンバーだけでなく、自分自身に対しても「プラスをさらにプラスにする」という考え方を最大限活用する。私のよさは「素直」であること。特別素晴らしい知識やスキルがあるわけではないが、素直に自分の思いを訴え続けることはできる。そのプラスの部分を軸にして周りのメンバーの可能性をどれだけ引き出せる存在になれるかがこの1年の私自身の挑戦である。

VOICE

研修生担当者

森脇　惇

関西学院大学法学部2年
研修生送り出し事業局　フィリピン担当

僕は貧困問題に関心があり、アイセックに入会しました。入会当時、岸本さんが研修に参加すると聞いて、非常に感銘を受けました。研修前の準備としてバングラディッシュで研修を経験された方にインタビューを行い、フィリピンで貧困解決に向けて活動を行っているNGOへ渉外に行ったりとアイセックに入会したばかりの時期にほんとうに貴重な体験ができたと思います。
また9月には他のメンバーとともにスタディーツアーという形で岸本さんが研修を行っている学校を訪問したのですが、フィリピンへの渡航日に空港で見せた不安いっぱいの岸本さんと違い、とても生き生きとしていて普段よりももっと大きく感じました。岸本さんのマネージャーを務めて、研修に行く前と行った後で研修生さんが心身ともに成長していく姿を直に見れることがマネージャーを務める大きな魅力の一つだと感じました。
研修を通じて、2カ月でここまで変われるものなのかと非常に驚き、研修で成長するというのはこういうことなんだなと実感すると同時に、その姿を見て僕自身も研修に行きたいと思うようになりました。熱い人からは色んな刺激をもらいます。成長する姿を見ることで今度は自分自身が成長しようと思い、夏の研修に向けて準備を進めているところです。岸本さんのマネージャーになり本当に良かったと思っています。

AIESEC
The international platform for young people to discover and develop their potential

山本 吏紗

関西学院大学　総合政策学部1 年
インターン期間：2009年2月～2009年4月
インターン先：カメルーン　Reach Out "the ASK Program "
インターン内容：HIV/AIDS問題へのアプローチ、
HIV/AIDSと闘う人のための施設の建設に携わる

研修実例紹介

Cameroon

＞インターンシップに参加した動機を教えてください。

高校時代に留学に行き、将来英語を活かした職業に就きたい、できれば海外で働きたいという思いは以前からあった。また小学生のころから地域ボランティアから国際支援ボランティアまで様々なボランティア活動に関わってきた。誰かの幸せの為に何かできる、自分のやったことで誰かが笑顔になってくれるということがとても嬉しくて、やりがいを感じた。その後、高校に入り、高校生模擬国連への参加や授業で世界の貧困問題や人権・差別問題を学ぶ機会があったことなどから、途上国の貧困問題へ興味を持つようになった。世界の悲惨な現状を知り、自分の境遇に感謝するとともに生まれる場所を選べないにもかかわらず、世界のどこかで苦しんでいる人がいることに胸を締め付けられた。長年、ボランティア活動を行ってきたことなどもあり、いつしか私の夢はアフリカなど途上国で直接的な開発支援を行うことになっていました。しかし、その夢が膨らむ一方で、自分の言っていることはただのきれいごとなんじゃないのかと、ふいに思い始めた。実際に助けたいと思った人々の生活を見たことがあるわけでもないし、彼らが本当に望んでいるものが何なのかも知らない。これはもう行ってみるしかないと思った。自分の将来を考えていく上で、学生のうちに現場を生で見てみたい、自分の気持ちや覚悟を確かめたい、いったい自分に何ができるのか知りたいと思い、アイセックの海外インターンシップに参加した。

本当に望まれているものは何か。
行って確かめるしかないと思った。

＞インターンシップを通して学んだこと。

実際にそこで暮らす人の生活を見たり、話を聞いたりして思ったのはそれぞれ求めているものは違うということ。だから、貧困問題の解決策を考えるにしてもそれを1つの枠でくくっていてはいっこうに平行線のままで答えには近づかないと思う。家がない人と食べ物がない人、親がいない人と家族が病気で苦しんでいる人、一人ひとり置かれている状況は違う。だけど、私たちはひとまとめにくくって同じ方法でしか人を救おうとしていないんじゃないのか。少なくとも私は彼らを同じものさしでしか見ていなかった。それってかなり無駄が多いし、救える人を見逃してしまったりしている。それに気づけたことは大きな収穫だったと思う。なぜならこれから私のアクションは変えられるから。興味のあることにはしっかり目を向けることが必要だと思った。せっかくのチャンスをたくさん逃してきていたのだと気づいた。

マイノリティー、越えられない壁。

＞インターンシップ中、困難だったこと

言葉の壁以上に、私は人種の壁に悩まされた。現地のNGOスタッフと同じように啓蒙活動を行ったり、イベントに参加したが、真剣にやっても好奇の目で見られるだけで真剣に取り合ってもらえなかったり、軽蔑的な言葉を浴びせられたりもした。挫けそうになったけど、負けるか！という気持ちになったし、それでも私は開発支援をしたい、彼らと関わっていきたいと思った。それを確認するために研修に参加したのだから、その気持ちはこれからも大切にしていきたい。この研修で、私は自分自身と真剣に向き合う時間が持てた。新しいことや衝撃的な毎日の中で次々と素直な感情があふれ出てきたのも私自身は意外で、驚きだった。

＞今後、この経験をどう活かすのか。研修で得たものは何か。

これからは専門性を身につけたいと思った。研修を通して、正直何かをやり遂げたというよりも、学んだことのほうがはるかに多い。現場では役に立たなかったり、まだまだ勉強不足だったり、自分の無力さを痛感しただから、帰ってからの課題のほうがたくさんある。まずはもっと勉強したい。そのあとに、医療や教育、農業、建築など、自分の強みとなる分野を見つけて、もう一度世界に挑戦したい。

研修の経験を活かす機会はたくさんあると思う。でも与えられた場だけでなく、自分からも発信していかなきゃだめだと思ったし、そうしたいと積極的に思う。また今回の経験を、自分のものだけで終わらせてはいけない。アフリカでの2カ月間、誰もが簡単に得られる経験ではない。それを経験することができたことに心から感謝し、これからもここをスタートラインにし、将来に向かって進んでいきたい。私が自分の研修から学んだこと、感じた思い、見てきたことを周りに発信していくことで、もともと貧困問題に興味のあった人にはより深く学ぶキッカケに、今まで全く興味のなかった人には少しでも目を向けるキッカケになれば、私にとってはお世話になったNGOへの恩返しにもなるし、とても嬉しいことだ。1人でできることは少なくて、微力でもそれが何人にも連鎖してつながっていけば、絶対に大きな力になると思う。「やりたい！」と思ったことを実際に動いてしていく、その積極性は身に付いた。行動に移すことで自分のしたいことを自分のものにすることができるし、新しく学ぶこともたくさんあるし、何よりも悶々と過ごしていた日々が、充実している。思っているだけじゃなくそれを形にしていく日々は1日1日本当に濃いもので、同じ1日という時間でも重さって研修に行く前と後じゃ全然違うなと思える。「したい！」ではなく「やる！」ことが大切。したい、で終わらせては、何もやってない人と同じで意味がないんだ。

行動に移さなければ、
何もしていないのと同じで意味がないんだ。

VOICE

研修生担当者
丹　夢希
関西学院大学法学部2年
研修生送り出し事業局　兼　外部関係局

私が山本さんのマネージャーを引き受けた理由は、私自身も貧困問題解決に興味があり、彼女の研修運営に携わることで、自身の貧困問題に対する知識を深めたいと考えたからです。結論から言うと、それまでほとんど興味のなかったHIV/AIDSに関する知識を少しでも得ることができたのは、これから貧困問題という大きなトピックを捉える上で非常に良い経験になりました。特にマッチングを乗り越えやっとたどり着いたマッチの段階でカメルーン側の書類に不備があり、時間がないにも関わらず、再度催促せざるを得ないという事態に陥りました。また、VISAの取得も危うい状態になったりしました。実際に研修が始まってからもハラハラはとまりませんでした。研修先はネット環境がほとんどなく、絶対の安全確認もあまりできず、緊急連絡先さえもなかなか手に入らなかったのです。
4月、無事に山本さんが帰国できたときは嬉しさよりも安心のほうが大きかったことを覚えています。
山本さんを始め、この研修運営に関わってくれたすべての人にお礼を言いたいです。
しかし、アイセックの研修はここで終わりではありません。研修前、研修中を通して何1つ満足したサポートができませんでしたが、これからの研修の振り返りの中で何か大きいものができれば、と考えています。

平成20年度　決算報告

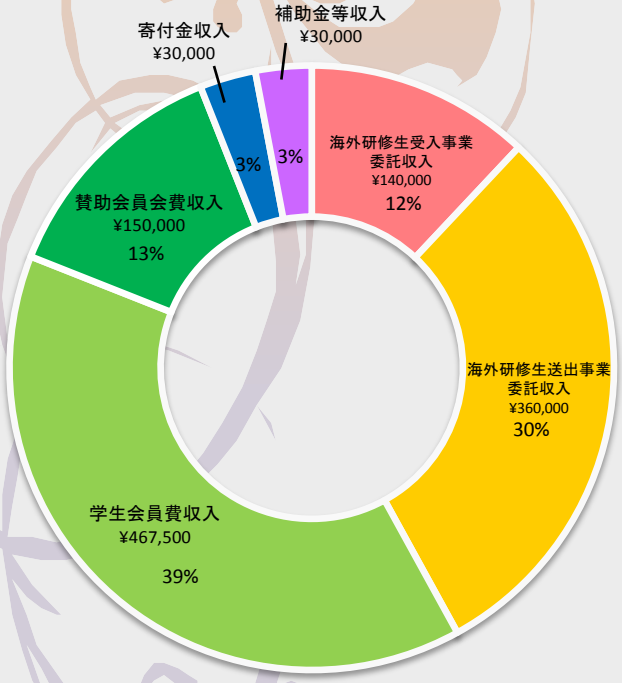
2008年度の大きな特徴は、その収入・支出構造の変化です。特定非営利活動法人アイセック・ジャパンの会員団体である弊委員会は本来、収入構造においては主幹事業である海外研修生交換事業活動に対する対価性がより高く、収入源が事業収入や賛助収入等の外部的収入である必要があります。また、支出に関しても内部統制にかかる経費よりも事業活動への支出が多い方が、より健全な状態だと言うことができます。2008年度は、対前年度比で収入の対価性と外部性が高まり、また、事業活動への支出の割合が増加した1年となりました。

具体的には、収入に占める事業収入は昨年度比で約20%増加、支出に占める事業活動への経費は約13%増加しております。これは私どもの活動がより皆さまのご支援のもと、「社会に根ざした」ものへと発展してきた証拠だと言えると思います。

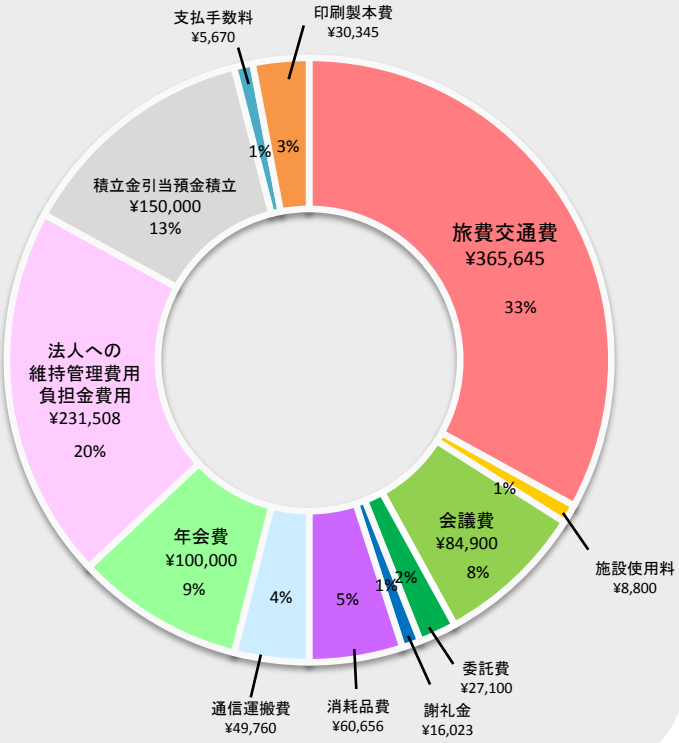
しかし、2009年度は金融危機の影響を受け、なかなかそうした外部的収入を得るのが困難となることが予想されます。また、2008年度の支出構造の変化は事業規模が拡大したことを示しており、未だ収入総額を見た際にはそうした活動規模の拡大に財政規模が追いついていないことがわかります。収入構造が変化したとは言え、大半は未だ学生会員会費収入に頼っており、メンバー個々人への自己負担額も依然多い状況は変わっておりません。本誌をご覧いただいている皆さまには、また引き続き弊委員会の活動に、新たなご支援とご協力のほどご検討頂ければ幸いです。

坂野　晶
関西学院大学　総合政策学部2年
平成20年度　財務局局長

収入の部



支出の部



AIESEC
The international platform for young people to discover and develop their potential

平成20年度 関西学院大学委員会
委員会会計 財務決算報告

貸借対照表

平成21年3月31日現在　　（単位：円）

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
現金		預り金	
普通預金	580,618	借入金	
定期預金		法人からの借入金	
有価証券		現金過不足	
立替金		源泉不明金	
法人への貸付金			
電話加入権			
保証金		負債合計	
基本金引当預金	100,000	正味財産額	980,618
基本金引当投資有価証券		（うち基本金）	100,000
積立金引当預金	300,000	（うち積立金）	300,000
積立金引当投資有価証券		（うち企画準備金）	
使途不明金		（うち当期正味財産増減額）	198,441
資産合計	980,618	正味財産合計	980,618
借方合計	980,618	貸方合計	980,618

KG 財務決算報告（貸借対照表）

収支計算書

自：平成20年4月1日　至：平成21年3月31日　　（単位：円）

項 目	決算額	予算額	増減
1. 収入の部			
海外研修生受入事業委託収入	140,000	140,000	
海外研修生送出事業委託収入	360,000	96,000	264,000
学生会員会費収入	467,500	430,000	37,500
賛助会員会費収入	150,000	200,000	▲ 50,000
寄付金収入	30,000	30,000	
補助金等収入	30,000	20,000	10,000
企画賛助収入			
広告賛助収入			
法人からの収入			
基本金引当預金取崩収入			
基本金引当投資有価証券売却収入			
積立金引当預金取崩収入			
積立金引当投資有価証券売却収入			
電話加入権売却収入			
保証金戻り収入			
基本財産運用収入	166		166
雑収入	1,182	900	282
当期収入合計	1,178,848	916,900	261,948
前期繰越収支差額	532,177	532,177	
収入合計	1,711,025	1,449,077	261,948

KG財務決算報告（収支計算書・収入の部）

収支計算書

自：平成20年4月1日　至：平成21年3月31日　　（単位：円）

項 目	決算額	予算額	増減
2. 支出の部			
印刷製本費	30,345	25,000	5,345
旅費交通費	365,645	353,300	12,345
施設使用料	8,800		8,800
会議費	84,900	102,400	▲ 17,500
委託費	27,100	45,000	▲ 17,900
諸謝金	16,023	7,850	8,173
飲食費			
宿泊費			
消耗品費	60,656	30,200	30,456
什器備品費			
書籍雑誌費			
通信運搬費	49,760	21,800	27,960
光熱水料費			
賃借料			
保険料			
会員加盟費			
年会費	100,000	100,000	
法人への維持管理費用負担金費用	231,508	194,367	37,141
法人へのその他の費用			
電話加入権購入支出			
保証金支払支出			
基本金引当預金積立支出			
基本金引当投資有価証券購入支出			
積立金引当預金積立支出	150,000	150,000	
積立金引当投資有価証券購入支出			
支払手数料	5,670	4,410	1,260
雑費			
当期支出合計	1,130,407	1,034,327	96,080
当期収支差額	48,441	▲ 117,427	165,868
次期繰り越収支差額	580,618	414,750	165,868

KG財務決算報告（収支計算書・支出の部）

協　働

～社会と学生の新しいカタチ～

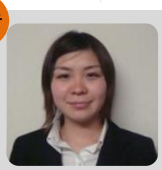
Stakeholders' Party 2008

＞今回のStakeholders Partyを企画した背景を教えてください。

今回のStakeholders Party（以下SHP）の目的は2つありました。1つは現在弊委員会と繋がりをもつStakeholders（以下SH）同士を結びつけること、もう1つはSHの方々に弊委員会の活動をより知っていただくことでした。これまで弊委員会は、多くのSHsの方々から様々な支援を受けてまいりましたが、「KGLCを介して企業様同士が繋がっている状態」を築けていませんでした。そのため、弊委員会と関係を持つ様々なSHsが一堂に会する場を作り、SHs同士のネットワークを構築する機会として活用していただけたらと思いました。また、私たちはSHsの方々との信用を守るため、日々ご支援をいただいているSHsの方々に対して、弊委員会の活動状況を報告し、より理解を深めていただく必要があります。その機会としても今回のSHPは位置づけていました。以上が今回のSHPを企画するに至った背景です。しかし、最も重要だったのはこのSHPで終わらせないことでした。SHPは1つの通過点に過ぎません。この企画からSHsの方々と弊委員会との新たな協働が生まれれば、という思いでこの機会を設けさせていただきました。

企画運営担当者

VOICE



原田　祐果
外部関係局
関西学院大学総合政策学部3年

VOICE

木村　まやの
総務局
関西学院大学経済学部3年

■企画概要■

【企画名】アイセック関西学院大学委員会
Stakeholders'Party 2008

【日時】2008年7月13日（日）13：00～17:00

【場所】関西学院大学大阪梅田ハブキャンパス
10F　1004号室

【主なコンテンツ】
・委員会活動、メンバー紹介
・第一部　パネルディスカッション
「協働　～よりよい明日へ」
・第二部　ワークショップ

【主催】特定非営利活動法人アイセック・ジャパン
アイセック関西学院大学委員会

【当日参加者数】
Stakeholdersの皆様：14名
アイセックメンバー：55名

Stakeholder's Party 2008

＞開催してみての感想や今後にどのように繋げたいか。

今までSHsは自分たちにとって遠い存在でした。SHsと協働したいと常々考えてはいたものの、ある程度しっかりとした提案を組み立てなければいけないという怯えから、これまで積極的にSHsの方々に協働機会の提案ができずにいました。
しかし、ワークショップで提案した内容をおもしろいと言ってくださったり、企業、またはOBOGの視点からアドバイスをいただくことができました。真剣に自分たちと向き合ってくださったことで、今後の協働の新たな可能性を感じられた企画になったと思っています。

反省点としては、もっといろいろなメンバーのアイデアが踏まえられていたらよかったと思っています。今回のSHPは原田、木村がメインで松本教授からのフィードバックをいただきながら企画したものだったのですが、ワークショップの内容をより研修運営事業と絡めた形でSHsのみなさんに提案するなど、実際にSHPが終わってからの協働を現実的に考えられるものになればよかったと思っています。そうすれば、このSHPの事後企画として大いに反映されたのではないかと思います。

最後に、今回のSHPは自分たちが動けば企業様には響くという気づきの機会となりました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。今後も今回のように企業様、OBOGの皆様と関われる機会を作っていけたらと思っておりますので今後とも、よろしくお願いいたします。

ー参加者の声ー

- まじめな学生が多いことに感心した。
- 議論が白熱し、楽しかった。
- 協働は企業側も望むところです。今後も参加させていただきます。
- 今後も続けてください。
- OBOGをもっと動員できるようがんばって欲しい。

■参加者一覧■

【理事】

■関西学院大学　商学部　教授
藤沢　武史　様

■関西学院大学　総合政策学部　准教授
松村　寛一郎　様

【海外研修生受入企業】

■清水電設工業株式会社
代表取締役社長　清水　政義　様

【諮問委員】

■アイセック・ジャパン　諮問委員
オクラホマ州立大学特別教授
松本　英一　様

【賛助企業】

■ 株式会社アローフィールド
代表取締役社長　矢野　英雄　様
最高諮問　深森　芳昭　様

■ 株式会社中央電機計器製作所
代表取締役社長　畑野　吉雄　様

■ 大日化成株式会社
代表取締役　小林　知義　様

■ 浪華絹綿株式会社
代表取締役社長　西澤　勉　様

【海外研修生】

■ Kazi Asifuzzaman（バングラデシュ）
@ 清水電設工業株式会社

■ Paul David Bryson（オーストラリア）
@ 株式会社出版文化社

■ 洪 浩 / Hong Hao（中国）
@ 株式会社出版文化社

【弊委員会Alumniの皆さま】

■1975年 卒業
吉谷　治逸様

■1984 年卒業
若藤　正典様

■1981年 卒業
大向　和寿様

■2004年 卒業
大北　啓代様

平成20年度　賛助企業一覧

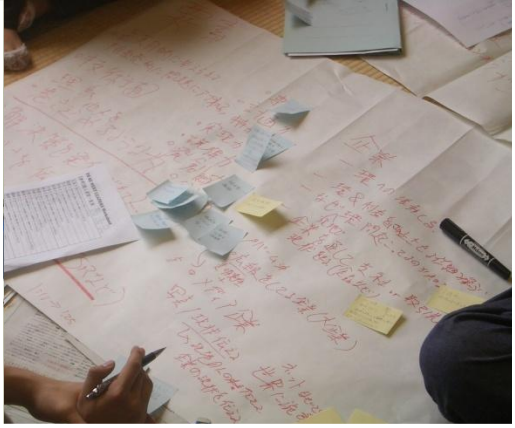
株式会社アローフィールド
代表取締役社長　矢野　英雄　様
http://www.arrowfield.co.jp/

清水電設工業株式会社
代表取締役社長　清水　政義　様
http://www.seavac.co.jp/

大日化成株式会社
代表取締役　小林　知義　様
http://www.dainichikasei.co.jp/

株式会社中央電機計器製作所
代表取締役社長　畑野　吉雄　様
http://www.e-cew.co.jp/index.html

浪華絹綿株式会社
代表取締役社長　西澤　勉　様
http://www.namiken.co.jp/



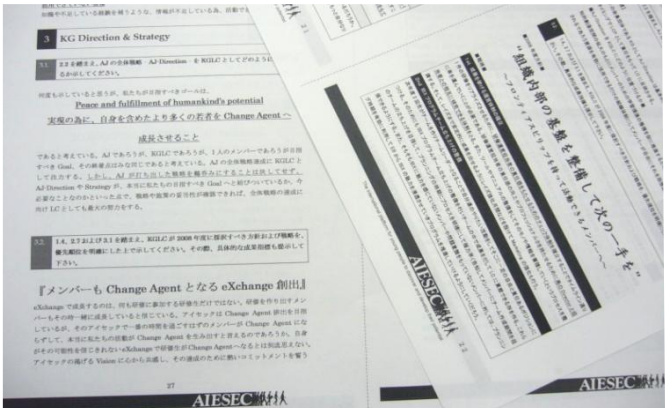
HEART
Azato

4. Leadershipを身に着ける
感性を磨く
旅行をする・人と会
健康管理
志を高く、信念を

AIESEC
Kwansei
Gakuin
Local
Committee

K.G.

Photo Album
2008



3 KG Direction & Strategy

3.1 3.2 を終えて、AJ の全体戦略 - AJ Direction - を KGLC としてどのように生かすかがしてください。

何度も申していると思うが、私たちが目指すべきゴールは、

Peace and fulfillment of humankind's potential

実現の為に、自身を含めたより多くの若者を Change Agent へ

成長させること

であると考えている。AJ であろうが、KGLC であろうが、1 人のメンバーであろうが目指すべき Goal、その終着点はみな同じであると考えている。AJ の全体戦略達成に KGLC としてどう生かすか。しかし、AJ が打ち出した戦略を絵空事にすることは決してせず、AJ Direction や Strategy が、本当に私たちの目指すべき Goal へと結びついているか、今必要なことなのかといった点で、戦略や施策の妥当性が確認できれば、全体戦略の達成に向け LC としても最大の努力をする。

3.3 1.4、2.7 および 3.1 を踏まえ、KGLC が 2008 年度に採択すべき方針および戦略を、優先順位を明確にした上で示してください。その際、具体的な成果指標も盛り込んで下さい。

『メンバーも Change Agent となる eXchange 創出』

eXchange で成長するのは、何も研修に参加する研修生だけではない。研修を作り出すメンバーも、その時一緒に成長していると信じている。アイセックは Change Agent 排出を目指しているが、そのアイセックで一番の時間を過ごすはずのメンバーが Change Agent になりずして、本当に私たちの活動が Change Agent を生み出すと言えるのであろうか。自身がその可能性を信じきれない eXchange で研修生が Change Agent へなる日は絶対来ない。アイセックの掲げる Vision にふかち共感し、その達成のために熱いコミットメントを誓う

"組織分析の実践を通して次の一手を"

～プロジェクトアセスメントを用いた組織のマネジメント～

AIESEC 関西大人

The international platform for young people to discover and develop their potential

アイセック関西学院大学委員会
団体概要

【2008年度　執行役員一覧】

三嶋　貴若
2008年度 委員長
関西学院大学　法学部3年

金澤一生
副委員長
海外研修生受入事業局　局長
関西学院大学　商学部3年

杉浦　望
副委員長
海外研修生受入事業局　局長
関西学院大学　総合政策学部3年

坂野　晶
財務局　局長
関西学院大学　総合政策学部2年

木村　まやの
総務局
関西学院大学　経済学部3年

原田　祐果
外部関係局　局長
関西学院大学　総合政策学部3年

中谷　勇輝
外部関係局
関西学院大学　総合政策学部3年

AIESEC
The international platform for young people to discover and develop their potential

【基本情報】

名称	特定非営利活動法人アイセック・ジャパン
	会員団体　アイセック関西学院大学委員会
理事	藤沢 武史　関西学院大学商学部教授
	松村 寛一郎　関西学院大学総合政策学部准教授
所在地	〒662-8501
	兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
	関西学院大学新学生会館内
URL	http://www/aiesec.jp/kg
E-mail	kwansei_gakuin@aiesec.jp
メンバー数	50名（2009年7月1日 現在）

【2009年度　執行役員一覧】

坂野　晶
2009年度 委員長
外部関係局　局長
関西学院大学　総合政策学部3年

岸本　大輔
副委員長
海外研修生送出事業局 局長
関西学院大学　総合政策学部3年

伊木　章子
副委員長
人材管理・育成局 局長
関西学院大学　総合政策学部3年

石井　恵士
海外研修生受入事業局 局長
関西学院大学　法学部4年

山本　吏紗
財務局　局長
関西学院大学　総合政策学部2年

上田　彩佳
総務局　局長
情報管理局　局長
関西学院大学　総合政策学部3年

東　輝実
広報局　局長
関西学院大学　総合政策学部3年

石本　綾
広報局　送出事業局広報担当
関西学院大学　総合政策学部3年

佐原　結
外部関係局　新規開拓事業部　部長
関西学院大学　社会学部3年

アイセック関西学院大学委員会

平成20年度年次活動報告書

発行日　2009年7月12日

発行団体　特定非営利活動法人アイセック・ジャパン
会員団体アイセック関西学院大学委員会
〒662-8501
兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
関西学院大学新学生会館内

発行責任者　平成21年度　委員長
坂野　晶（関西学院大学総合政策学部3年）

編集者　平成21年度　広報担当
東　輝実（関西学院大学総合政策学部3年）

AIESEC

The international platform for young people to discover and develop their potential